

番組組

令和元年十二月一日 午後二時開演

解説 水上 優

仕舞

巻 簾 高橋 亘
絹 今井 泰行

地謡 田崎 大友 順甫
和久 莊太郎 基

狂言 舟渡 智 高澤 祐介

三宅 近成 前田 晃一

後見 金田 弘明

休憩 十五分

能 通小町 大日方 寛
ツレ 小倉 伸二郎
シテ 武田 孝史

大鼓 國川 純
小鼓 幸 信吾 笛 小野寺 竜一

後見 大友 順
和久 莊太郎

地謡 今井 基 高橋 亘
田崎 良甫 今井 泰行
金森 充 水上 優

終了予定 午後四時半頃

作品介绍

通小町

くまよこまち

洛北(京都)八瀬の里で夏の仏道修行を行なっている僧のもとへ、毎日本の実や薪を持ってくる女があります。今日もまた訪れた女は木の実づくしを語り、僧に素性を問われると、自分は市原野に住む者と答え、小野小町の「秋風の吹くにつけても」の歌の一部を口ずさみ、かき消すように失せてしまいます。その言葉つきから小町の幽霊と察した僧は市原野に行き、小町の亡き跡を辿ります。すると薄の中から小町の亡霊が現れます。そして僧に授戒を請いますが、後から現れた深草の少将が小町の成仏をさまたげるのです。僧が懺悔のために百夜通いの様を見せるように説くと、少将は請われるままに雨の夜も雪の夜も小町を慕って通いながら、九十九夜目、恋の成就する喜びの絶頂で死した昔語りを狂おしく再現して見せ、やがて小町も少将も成仏していきます。

舟渡 智

ふなわたしむこ

結婚後、初めて舅に挨拶をする「智入り」のため、舅への土産に酒と肴を携えて、智は舟に乗り込みます。すると酒好きの船頭は早速酒樽を目をつけ、飲ませなければ舟を揺らすなどして智を脅して酒をせがむので、仕方なく酒を飲ませます。散々な目に遭いようやく舟を降りた智が、舅の家に行くこと...



武田 孝史
たけだ たかし

昭和29年生まれ、シテ方宝生流武田喜永の二男。17代宗家宝生九郎、18代宗家宝生英雄に師事。昭和48年「禪師曾我」にて初シテを勤め、これまでに「道成寺」「石橋」「乱」「翁」「望月」「鵜田川」などの大曲を披露。重要無形文化財総合指定保持者、公益社団法人宝生会常務理事、一般社団法人日本能楽会理事、同門会「喜玉会」を主宰する。



高澤 祐介
たかざわ ゆうすけ

昭和47年生。三宅右近に師事。昭和62年「禪」で初舞台。平成10年「三番叟」、平成12年「釣狐」、平成14年「金岡」、平成28年「花子」を披く。狂言会「祐の会」を主催。能楽協会および日本能楽会会員。重要無形文化財総合指定保持者。



高橋 亘
たかはし わたる

昭和42年生まれ。18代宗家宝生英雄、19世宗家宝生英照、辰巳孝、佐野萌に師事。昭和49年「鞍馬天狗」花見で初舞台、平成4年「小袖曾我」で初シテを勤め、これまでに「石橋」「道成寺」「乱」「翁」を披く。重要無形文化財総合指定保持者。現在は自身の同門会「喜玉会」を主宰する他、東京大阪を中心に舞台活動に励んでいる。



今井 泰行
いまい やすゆき

昭和31年生まれ、シテ方宝生流今井泰男の長男。18代宗家宝生英雄に師事。昭和37年「鞍馬天狗」花見で初舞台、昭和50年「禪師曾我」で初シテを勤め、これまでに「石橋」「連獅子」「道成寺」「乱」「翁」を披く。重要無形文化財総合指定保持者。自身の同門会「吟玉会」を主宰する。

第38回市民能楽講座

【公演日】2019年12月1日(日) 14時開演(開場13時)

【会場】日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター) シアターホール 仙台市青葉区旭ヶ丘3丁目27-5 [地下鉄南北線「旭ヶ丘」駅下車徒歩3分]

主催 / 仙台市能楽振興協会・仙台市・公益財団法人 仙台市市民文化事業団